

伊勢湾台風が生んだ冬の風物詩

「たき火にあたるサル」が

今年で50周年を迎えます。

早いもので、2009年もまもなく終わろうとしています。皆様ますますご活躍のことと存じます。

さて、今年も冬の風物詩「たき火にあたるサル」が12月22日(火)冬至より始まります。毎年恒例となっている冬の風物詩「たき火にあたるサル」ですが、今年は50周年の節目の年となります。1959年、伊勢湾台風の風水害により発生した倒木や倒壊家屋の処理に困り焼却したところ、サルがあたり始めて50年間、毎年脈々と続けてまいりました。本来火を恐れるはずのサルたちが、平気で火に近寄り暖をとる様子は、心和ませる冬の風景となりました。

たき火でじっくりと焼き上げた最高級サツマイモ『チバニシキ』¹が14:00に掘り出されると、152頭のヤクニホンザルが大挙して押しかけ、大焼き芋パーティーに。アツアツのお芋をそれぞれ苦心して食べる姿もユーモラスです。

1 時期により鳴門金時などに替わることがあります。

たき火にあたる主人公のサルは、世界自然遺産の島、屋久島だけに生息するヤクニホンザル152頭です。ヤクニホンザルを飼育しているのは、世界中で日本モンキーセンターだけです。

今年は伊勢湾台風から50年が経過したとのことで、当時を振り返る記事等が多く見られました。不幸な災害の中から意外にもこのような心温まる風物詩も誕生したことを、50年の節目の年に皆様に知って頂けたら幸いに存じます。

暮れのひと時、サルたちがのんびりとたき火にあたり過ごす様子をご覧頂き、心を和ませていただければと思い、お知らせいたしました。

冬の風物詩「たき火にあたるサル」実施概要

日程：2009年12月22日(火)～2010年2月28日(日)の毎日

荒天時中止 2010年2月17日(水)のみ休園

場所：モンキーバレイ

たき火にあたるサル

火をこわがるはずのサルたちが、たき火を囲んでポカポカ！？

伊勢湾台風が生んだ冬の風物詩。今年で50周年を迎えます。

時間：11:30～14:00

ほかほかおイモタイム

飼育員のガイドのあと、たき火で焼いたおイモをサルたちがぼおぼります。

お客様にも、ほかほかおイモをお召し上がりいただけます。

時間：14:00～

お客様にお召し上がりいただくおイモは、十分ご用意いたしますが、数に限りがあります。

50周年記念・新作紙芝居「モンキーバレイ今昔物語」

ヤクニホンザルが主人公の新作紙芝居を公演します！

時間：14:10頃～

伊勢湾台風が生んだ冬の風物詩「たき火にあたるサル」50周年展

野猿公園時代のなつかしい写真やエピソードなどを展示します。

場所：モンキーバレイ前 無料休憩所

報道関係の皆様へのご案内

12月20日(日)、21日(月)

9:30～14:30 たき火を実施します。

焼イモは11:00と13:00にサルに与えます。

9:00頃にはたき火はついております。

焼イモを与える時間は調整できません。生のイモは食べますが、生焼けのイモは全く食べません。

2日間とも、22日からの本番と同様に、サルといっしょにお客様にもおイモを召し上がっていただく「ほかほかおイモタイム」を実施します。

「ほかほかおイモタイム」では、ガイドを聞きながらサルたちが焼イモを

ほおばる様子をご覧いただいたあと、お客様にも最大 400 名様分（当日の入園者数に合わせた分量）の蒸し立てのお芋をご用意し、無料にて召し上がっていただきます。

22 日以降はお客様へご案内しているとおりの時間で実施いたします。
取材は可能ですが、時間調整はできません。

< 添付資料 >

- 1 . 追加情報
- 2 . 冬の風物詩「たき火にあたるサル」の写真
- 3 . 冬の風物詩「たき火にあたるサル」について
- 4 . Web サル図鑑より「ヤクニホンザル」

本件に関するお問い合わせは以下へお願いいたします。

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

財団法人日本モンキーセンター

TEL : 0568-61-2327 FAX : 0568-62-6823

担当 : 園長 加藤章、学芸員 赤見理恵、主任学芸員 高野智

日本モンキーセンターのホームページ（<http://www.j-monkey.jp>）の「取材等のお問い合わせ」ページより、フォームに従ってご記入の上、送信していただくこともできます。夜間も含め、毎日確認とお答えをさせていただきます。

【追加情報1】ヤクニホンザルについて

- ・世界自然遺産の島、屋久島のみに生息する、ニホンザルの亜種です。
- ・飼育している施設は、世界中でも日本モンキーセンターのみです。
- ・ニホンザルよりも少し小柄で、毛足が長く色が濃いのが特徴です。
- ・日本モンキーセンターでは現在152頭をモンキーバレイにて飼育しています。
- ・その他、詳しくは別紙資料（Webサル図鑑）をご覧ください。

【追加情報2】動物園スペシャルDAY！！

遊園地が休園の日も、動物園は営業します！動物園だけ楽しみたい方にはもってこいの「動物園スペシャル DAY！」 ストープにあたるサルをご覧になるにも最適です！

日程：2月末までの、年末年始や祝日を除く水曜日と木曜日

（12/16, 17, 1/13, 14, 20, 21, 27, 28, 2/3, 4, 10, 18, 24, 25）

動物園を楽しむための特典いっぱい！

入園料割引（おとな 1600円 600円、こども 800円 300円）

駐車場無料

「たき火にあたるサル」を毎日開催！ほかほかおイモタイムや新作紙芝居公演もあります。

営業時間は11:00～16:00です

2月17日(水)のみ休園

園内のレストランや売店等は全て営業していませんので、ご注意ください。

【追加情報3】新・冬の風物詩「ストープにあたるサル」

- ・Waoランドでくらすワオキツネザルが、寒い冬をストープで乗り切るようになりました。
- ・晴れた日には、夜に冷えた体を太陽に向け、手足を広げて日光浴をします。
- ・曇りの日、従来は仲間で集まって団子になり寒さをしのいでいましたが、一昨年から、スタッフ用に設置したストープに近寄り、日光浴と同じような仕草で、ストープにあたるという行動が見られるようになりました。
- ・別途プレスリリース資料をご用意しておりますので、ご連絡ください。

冬の風物詩 「たき火にあたるサル」について

昭和34年の伊勢湾台風でた倒木や家屋の残骸を旧犬山野猿公苑(1957~1997)で処分を兼ねて職員が暖をとるため焚き火をしたところ、少しずつサルが集まってきたことが始まりです。

伊勢湾台風が産んだ冬の風物詩として今年で50年を迎えます。その後、「冬至」より、翌年の2月28日(暖冬などにより変更あり)まで毎年続けております。また、余禄としてサツマイモを焼き、サルたちに寒い冬の午後の一時を幸福に浸ってもらっています。おきで2時間以上かけて焼かれる「焼イモ」の味は格別のようなのです。

ここで焼かれるおいもは千葉で丹精込めて作られたチバアズマやナルトキントキの超特級品のサイズ規格はずれで、高級和菓子の材料や川越の高級料亭の芋粥に用いられ、その味は天下一品です。静岡の高級青果店「紅光」が特別に21軒の専業農家と契約し、供給してくれるもので、市場にはほとんど出回ることがなく、一般には入手不可能なおいもです。同じおいも(こちらは規格品)を来園者にも召し上がって頂きます(無料、毎日400人分・・・即品切れです)。

海外ではニホンザルをミラクルモンキーと呼びます。これは北限のサル・スノーモンキー(青森県下北半島)、温泉につかるサル(長野県地獄谷)、イモを洗うサル(宮崎県幸島)とならんで焚き火にあたるサル(愛知県犬山)をミラクルモンキーとして紹介しています。

焚き火にあたるサルは、世界遺産の島、屋久島にのみ生息し、世界中で日本モンキーセンターだけが飼育展示する世界遺産のサル「ヤクニホンザル」で152頭(オス72頭、メス80頭)が、第13代ボスのヒトデ(26歳 平成19年就任)のもと平和に暮らしています。ニホンザルの亜種ですが、体格が2回りほど小さく全体にこじんまりとしたサルです。好奇心が強く、石打ちや雪団子作り、アイススケートなど次々に新しいことを編み出すたいへん貴重な種でもあります。

現地、屋久島では徐々に生息数が減りつつあり、急ぎ保護を必要とされています。日本モンキーセンターでは昭和32年以来、ここ犬山で飼育され、多くの研究者の研究対象として、また観光資源として飼育を続けています。たき火にあたる行為は自然に発生したもので、他所ではニホンザルを用いて、人為的に試みられていますが全て失敗に終わっているようです。



たき火を囲んで暖をとるヤクニホンザルたち



怖がるはずの火も大丈夫。



ほかほかおイモタイム



400人を超える長蛇の列が。